

総括研究報告書

1. 研究開発課題名：精神疾患患者に対する早期介入とその体制の確立のための研究
2. 研究開発代表者： 水野雅文（東邦大学）
3. 研究開発の成果

本研究班では、精神疾患のごく早期段階におけるいわゆる早期発見と、その後の早期段階における治療体制を確立することを目指している。具体的には「早期介入ガイドライン」を策定し、様々な場面で精神疾患特に統合失調症の早期段階を中心に、治療開始の遅れや不適切な過剰介入などが行われないよう、具体的な指針作りを目指している。研究予定期間は3年間であり、昨年度は2年目にあたる。

初年度において要点整理と課題の洗い出しを終え、2年度においては、わが国における早期介入体制の確立にあたり必要な点を明らかにするために、(1) 早期精神病の概念整理、(2) 心理社会的アプローチ、(3) 初回エピソード精神病および初回エピソード統合失調症に対する薬物療法、(4) ARMS・UHRに対する薬物・栄養療法、(5) 地域支援の方法論、(6) 早期介入の医療経済効果、(7) 学校教育への取り組み、(8) 海外における早期支援モデル、の各項の検討を深めた。

(5) 地域支援の方法論については、各班の置かれる地域特性を踏まえ、各地におけるモデル的あるいは試行的取組を実践しながらその特徴、利用者の背景、ニーズ調査などを進めている。これまでに各班が運用している早期介入システムの中でも、イルボスコを中心とした城南ティーンこころのメンテ研究会、EDICSのココロアップノートシステム、石巻を中心とする被災地の若者心性に配慮したニーズ調査などは特に重点的に注意深く運用し、その成果を検証している。それらの結果を、現状の医療保健システムにおいて実施可能なモデルとして整理し、大都市型と小都市型の2型に整理しガイドライン内で提言していけるように情報を整理しているところである。

大都市型に関しては、東邦大学大森病院におけるイルボスコやユースクリニック、こころのメンテ研究会など、都市における多職種連携についての検討が進んでいる。また小平市の国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターでは「統合失調症の早期診断・治療センター (EDICS: Early Detection and Intervention Center for Schizophrenia)」を構築し、EDICSと近隣の精神科医療機関との連携を構築中である。近隣の精神科病院、精神科診療所、市保健センターからの要望により患者向けパンフレットの作成およびホームページの改訂を行うとともに、EDICSから医療機関等に訪問して説明を行っている。

小都市型としては、金沢医科大学病院神経科精神科における Outpatient clinic for Assessment, Support and Intervention Services (OASIS) や東北大学による東日本大震災被災地である石巻地域において行われている複数の団体による若者への早期介入についてのネットワークについて聞き取り調査などが進行中である。また諸外国の例として、英国 NICE(National Institute for Health and Care Excellence)による Psychosis and schizophrenia in adults: prevention and management を翻訳し参照しているところである。

(2) 心理社会的アプローチ については、精神病発症危険状態(At-risk mental state: ARMS)に対する認知行動療法の実施可能性を共通プロトコルを用いて検討している。平成27年度までに予定していた13名の介入と1年間の追跡を終了することができた。6ヶ月間の介入成績については、安全性と有意な改善を確認し日本統合失調症学会において発表した。この成果を踏まえたガイドラインの検討を開始した。

(7) 学校教育への取り組み としては、高知県の高校生(15歳から18歳)の統合失調症に関する知識の有無と精神病様症状が実際に出現したときの希求行動との関連について資料を調査した。統合失調症

の症例文を読んで統合失調症と正答した者がわずかに7.4%であった。精神疾患はないあるいは分からないと回答した者（精神疾患と認知できなかった者）は35.7%であった。全体としては何らかの精神的な不調に自身が困った場合の最初の相談相手は、友人が64.2%、家族が46.3%であり精神科医と回答した者は3.4%しかいなかった。学校教育におけるメンタルヘルスリテラシーの必要性について論じた。さらに各施設の利用者を対象にニーズ調査などを行い、サービスモデルのあり方にも反映できるよう検討するところである。